

2024年度 保育所の自己評価について わかば保育園 2025年3月19日

1. 本園の保育方針と保育目標

○保育方針

- ・心と身体を健やかに育て、その可能性を引き出す生活と教育の場
- ・父母が安心して働ける保障の場
- ・職員が学び生き生きと働く場

○保育目標

- ・健康な子ども
- ・仲間を大切にし、自分も大切にする子ども
- ・心ゆたかな子ども
- ・仲間と一緒に考え、力を合わせる子ども
- ・自分のことは、自分でできる子ども

2. 園としての今年度の課題

○保育の質の維持向上

○保護者との関係づくり

○職員の働き方改革（仕事の明文化を行い、仕事内容を厳選していく）

○人材育成、人材の定着、人材確保

○地域に開かれた子育て支援

3. 2の課題にどのようにとりくんだか？

○保育の質の維持向上

- ・各ミーティング（クラス、乳児、幼児、週）や会議で各クラスの保育、子どもの様子等の情報共有が出来たことが、多角的な視点で保育をすることに繋がった。
- ・学習会で土粘土、絵具等の年齢ごとのねらいや取り組み方を学び実践できることが、モチベーションに繋がった。
- ・他園との職員交流で、実際に他園に行き、保育の取り組みや情報交換を通して保育の見直し、考え方、とらえ方の違いを話し合うきっかけとなった。

○人材育成、人材の定着、人材確保

- ・各ミーティングが定期的にあることで、個人やクラスだけでは解決出来ないことに対して、園長、主任、他クラスの保育士からアドバイスをもらい、色々な方法を知り、クラスの気付きに繋がっている。
- ・園内研修、キャリアアップ研修、外部研修などを行い、個人のスキル向上に繋がっている。
- ・期ごとに、個人の反省や振り返る機会があることで、課題が明確になる。
- ・声を掛け合いフォローすることや悩みを話しやすい環境が離職率の低さになっている。

○保護者との関係づくり

- ・連絡ノート、送迎時の声掛け、行事や懇談会などの場面で家庭での姿、園での姿を具体的に伝え合い、子どもの姿の共有を心掛けた。
- ・わかばまつりや保護会行事での交流
- ・保護者からの意見に対して、受け止めつつも、園の方針を伝え、丁寧に対応している。

○地域に開かれた子育て支援

- ・園庭開放を毎日実施し来園した親子には話しかけ、過ごしやすいように工夫した。
- ・年3回の交流保育では、地域の親子が参加し、園児との交流の機会になった。
- ・わかばまつりでは、地域の方に来てもらい、園の様子を見てもらえた。
- ・年2回のケアプラザ訪問

○職員の働き方改革（仕事の明文化を行い、仕事内容を厳選していく）

- ・保護者へのお知らせをメールでの配信にすることで、お休みの家庭にも情報がすぐに届くようになった。
- ・簡素化できる部分を話し合い、作業の分担化を行った。
- ・これまでのやり方（文集の内容の厳選等）以外のよりよい方法を検討して取り組んだ。

○総評

コロナ禍の影響で保護者との繋がりが難しくなっていた状況も大きな行事の人数制限は有るものコロナ禍前に戻り始めました。

今年度は、保護者との対話を大切に子育てのサポートを行ってきました。

保育の質の向上には、保育士の学習が必要。保育士の苦手分野や興味を拾い園内研修も行うと保育士自身のモチベーションの向上がみられました。

園長 伊佐治 由紀

4. 次年度の課題や改善点

○2025年度 園の課題、改善点

- ・保育の質と維持向上
- ・人材育成、人材の定着、人材確保
- ・保護者との関係づくり
- ・防災、防犯対策